

事例5

< 事例概要 >

- ・ 60 歳代、頸椎後縦靭帯骨化症の患者。
- ・ 頸椎前方固定術（C2-7）を施行。気管挿管困難で、スコープを使用。術中、上甲状腺動脈から出血を認め止血。手術時間は約3 時間。術中出血量は少量。挿管のまま病棟帰室し、手術終了約15 時間後に抜管。
- ・ 抜管後から痰が多く、湿性咳嗽を認めた。抜管約9 時間後には、仰臥位で創部痛増強、呼吸促迫あり、経皮的動脈血酸素飽和度（以下SpO<sub>2</sub>）93~96%。抜管17 時間後、発汗著明、興奮傾向となった。SpO<sub>2</sub> 93%。鎮静剤を投与後、突然ドレーンより大量出血を認め、呼吸回数、心拍数が低下した。気管挿管を試みたが困難、スコープを使用し挿管したが、術後2 日目死亡。
- ・ 死因は、気道閉塞。死亡時画像診断（Ai）無、解剖無。